

特集の意図

行動嗜癖の輪郭は精神医学の中でも曖昧であったが、近年報酬系回路など脳研究の進展により物質依存症との類似も報告され、DSM-5においては「物質関連と嗜癖の障害」として分類された。行動嗜癖の脳内メカニズムに関する新しい知見を踏まえ、危険ドラッグ、ギャンブル、インターネット、窃盗といった対象への依存についてその概念と治療をまとめる。

特集の構成

1. 鼎談 嗜癖疾患の新しい視点【竹村道夫×森山成樹×三村 將（司会）】
2. アディクションの神経基盤 ― 2つのドーパミン神経系と強化との関係（松本正幸） 行動の強化を促すドーパミン神経系の働きがアディクションの神経基盤であるという考え方が広まっている。ドーパミンニューロンの活動と報酬、また報酬以外との関連について最新の知見を紹介する。
3. 危険ドラッグの薬物依存性と毒性 ― 基礎研究から探るそのメカニズム（船田正彦） 合成カンナビノイドを中心にその作用点や引き起こされる症状、依存へのメカニズムをまとめた。治療では中枢作用の特徴や薬物渴望期の特徴を理解したうえで再使用を抑制する介入を行う必要がある。
4. インターネット依存の概念と治療（ムハンマド・エルサルヒ、他） オンラインゲームとソーシャルネットワークサービスへの依存を中心に、インターネット依存の症状や危険因子をまとめた。予防・治療には患者およびその家族の参加が強く求められる。
5. ギャンブル障害の倫理的・法的・社会的問題と治療（森山成樹） 本邦におけるギャンブル障害では20～30代で病気とみなされる状態になることが多く、また患者の大半がパチンコに関与している。経済効果を生む反面、ギャンブル症者の引き金となるため、環境整備が求められる。
6. 窃盗症の概念と治療（竹村道夫） 窃盗症の研究は他の行動嗜癖に比べて遅れており、診断基準にも混乱がみられる。症例を挙げながら診断基準に対する著者の解釈をまとめ、回復途上者からのメッセージや自助グループへの参加など、治療のアプローチを紹介する。
7. 性依存症からの回復（吉岡 隆） 性依存症患者、およびその家族の手記を紹介し、医学的治療、心理教育、個別カウンセリング、リハビリテーション、相互援助グループといった回復のためのプログラムについて解説する。支援体制の課題についても触れる。